2025 年度　日本福祉大学・愛知学院大学・藤田医科大学
IR 合同研修会・共同 IR 報告書

■日時：2025 年 9 月 2 日（火）10：00～11：35
■開催方法：Zoom
■参加者：
【日本福祉大学】
景行　芳明　課長　　（企画政策課）

【愛知学院大学】
髙原　紀明　事務長　（大学教学改革推進企画室）
鬼頭　慶光　　（大学教学改革推進企画室）
元平　敬子　課長　　（研究推進・社会連携課）
加藤　亮一　課長補佐（研究推進・社会連携課）

【藤田医科大学】
太田　充彦　　IR 推進センター長
吉本潤一郎　　IR 推進センター副センター長、医学部 IR 分室長
武藤　晃一　　IR 推進センター副センター長、医療科学部 IR 分室長
中村小百合　　IR 推進センター副センター長、保健衛生学部 IR 分室長
髙村　真広　　IR 推進センター専任教員
山本　勇樹　　IR 推進センター事務局
小山沙都子　　IR 推進センター事務局
早川　茉莉　　IR 推進センター事務局

■概要：令和 6 年度文部科学省全国学生調査の実施データから 1 週間の生活時間を問う設問 5（下表）の結果を共有し、学生の生活・学修時間について意見交換を行った。

表　全国学生調査問 5 の質問内容

今年度後期の授業期間中の平均的な 1 週間（7 日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

- 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
- 卒業論文・卒業研究・卒業制作（※最終学年または該当する学部のみ）
- 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
- 授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、　資格試験の勉強等）
- 部活動／サークル活動
- アルバイト／定職

選択肢：①０時間、②1－5 時間、③6－10 時間、④11－15 時間、⑤16－20 時間、⑥21－30 時間、⑦31 時間以上

■研修会次第：

１．各校より報告　※別紙資料参照

(1)藤田医科大学「藤田医科大学における令和６年度全国学生調査にもとづく学生の時間の使い方の実態（髙村真広 IR 推進センター専任教員）」

令和 6 年度文部科学省全国学生調査の実施データから 1 週間の生活時間を問う設問 5 についての回答データを抽出、分析した。全国学生調査への参加方法として、大学独自の調査（学生生活・学修実態調査）に全国学生調査の質問項目を含める形式で実施した。分野・学部は「医学（6 年制）」「保健」の 2 分野 3 学部であり、学生生活・学修実態調査の回答率は約 99%であった。各設問の生活時間に関する回答分布と、その分布を詳細に可視化した解析結果を示した。

(2)日本福祉大学「令和６年度全国学生調査（第４回試行実施）日本福祉大学の調査結果報告（景行芳明企画政策課長）」

令和 6 年度文部科学省全国学生調査の実施データから 1 週間の生活時間を問う設問 5 についての回答データを抽出、分析した。全国学生調査への参加方法は、文部科学省が提供するインターネット調査形式を採用した。分野・学部は「人文」「社会」「保健」「教育」「スポーツ」「その他」の６分野７学部で、全国学生調査の回答率は約 10%であった。生活時間に関する回答結果とあわせて全国学生調査のその他の調査項目（教育内容、知識・能力習得の実感等）の結果を加えた総合的分析を報告した。

(3)愛知学院大学「令和６年度後期における学生の生活時間調査―本学独自調査を基に―（髙原紀明大学教学改革推進企画室事務長）」

学校独自調査のうち全国学生調査の問 5 と同一の設問項目の調査データを集計した。回答する時間区分の選択肢が全国学生調査と異なる 6 段階であったが傾向の比較は可能と考えた。分野・学部は「人文」「社会」「保健」「家政」「歯学（6 年制）」「薬学（6 年制）」の 6 分野 10 学部で、学校独自調査の回答率は約 45%（2 年生）～56%（最終学年）であった。生活時間に関する回答結果に加え、それらを授業履修状況や GPA といった学務データと関連付けた分析を報告した。

（総評）

医学・歯学・薬学・保健では最終学年において「授業と直接関係しない自主的な学習」時間が増えていた。これは国家試験の卒業時に受験する国家試験に備えたものであろう。

人文・社会では 2 年生に比べて最終学年では「授業への出席」時間が大きく減っていた。最終学年までに卒業に必要な単位を取得して就職活動等に備えていることが推測される。

医学・歯学を除く分野では部活動・サークル活動を行っていない学生が大半を占めていることが明らかになった。

２．意見交換

藤田医科大学：部活動・サークル活動は愛知学院大学の歯学部や本学の医学部などは部活動参加率が高い傾向があるが、他の学部は低いことが伺われる。このことについてどのように考えているか？最近の学生は授業のためだけに大学に来ているのだろうか？

日本福祉大学：本学も学生の部活動・サークル活動の活性化が大きなテーマとなっている。本学は知多半島に３つのキャンパス（美浜・半田・東海）を設置しており、それぞれで状況が異なっている。美浜キャンパスは、2017 年度のスポーツ科学部設置によりスポーツ系部活動が活性化してきている。一方で、半田キャンパスと東海キャンパスでは、スポーツ施設が限られているため学生活動が活性化しにくい状況がある。

愛知学院大学：本学では新キャンパスの開設もあり、教育環境の充実を図っている。新キャンパスには専用のスポーツ施設はないが、従来のキャンパスでは整備が進められており、スポーツ分野に関心のある学生が活躍できるよう学生活動の支援にも力を入れている。また、キャンパス間の連携を強化することで、学生が学習や課外活動において幅広い機会を得られるようにすることが必要だろうと考えている。

藤田医科大学：調査結果を共有する場は設けているか？（藤田医科大学は学生生活・学修実態調査の結果を IR 推進センターのホームページにて一般に公開している。）

日本福祉大学：大学独自の学生生活調査の集計結果を大学運営会議にて毎年定期報告している。加えて、毎年５月１日を基準日とした「FACT BOOK(校地等の状況、在籍者の状況、専任教員の状況等を集計した報告書)を作成し、大学運営会議で定期報告するとともに教職員はいつでもデータを確認できるようにしている。

愛知学院大学：全学の委員会で調査結果を共有した後、各学部・学科へ調査データを提供し、各学部・学科にて検証・検討のうえ、報告書を作成している。その後、検討結果をまとめた報告書についても全学の委員会で報告・共有している。

藤田医科大学：日本福祉大学の課題として外国語を使う力に否定的な回答が多かったことが挙げられたが、この結果を踏まえてどのような取り組みを考えているか？

日本福祉大学：今回の調査結果にて把握した課題であるため、今後、学内関係者に情報共有を行う予定である。現時点で改善活動までには至っていない。外国語を使う力に関わる取組としては、ある学部では入学時に実施する英語テストの結果を踏まえて語学系科目のクラス編成を行っている事例がある。また、海外ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ（１年次後期）を必須科目としている学部もあり、それぞれの学部において学生の語学力レベルに応じた教育を展開している。

藤田医科大学：本学も国際能力が身に付いたかという設問に対しては、否定的な回答が多い。学生自身が身に付いたと実感できる教育内容を検討していくことが必要と考えている。

以上